

目次

Introduction：はじめに

第1篇 ヨーロッパの観光地

No.1：イギリスの観光地

No.2：フランスの観光地

No.3：イタリアの観光地

No.4：ドイツの観光地

No.5：スペインの観光地

No.6：ポルトガルの観光地

No.7：スイスの観光地

No.8：オーストリアの観光地

Part II 掲載国

No. 9：ギリシャの観光地

No. 10：ベルギーの観光地

No. 11：オランダの観光地

No. 12：ロシアの観光地

No. 13：北欧の観光地（デンマーク、フィンランド、ノルウェーなど）

No. 14：東欧の観光地（チェコ、ハンガリー、ポーランドなど）

第2篇 アジアの観光地

第3篇 北米の観光地

第4篇 中南米の観光地

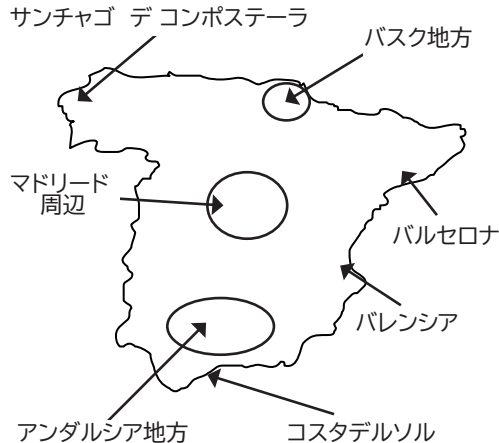
第5篇 オセアニアの観光地

第6篇 アフリカの観光地

第7篇 中東の観光地

No. 5：スペインの観光地

【概要】



隣国のポルトガルとともにイベリア半島を構成する。北に隣接するフランスとの間には、標高 2000 ～ 3000m 級のピレネー山脈がそびえる。国土の中央部は「メセタ」と呼ばれる乾燥した高原地帯で、夏は日差しが強い。

歴史をさかのぼると、この地は紀元前3世紀ころローマ帝国の属州であり、その後キリスト勢力による王国が建設されたが、西暦711年にアフリカ大陸北部からイスラム勢力が侵入し、さらに半島の大半を支配下に置き、文化的にも長く繁栄した。

しかし同時に、北部からキリスト教勢力の反攻も始まり、約800年かけて国土を再統一した。これをレコンキスタ（国土回復運動）という。

以上のことから、スペインの観光地はこれらのこの地を制した勢力の文化が色濃く残るものが多い。

【首都マドリード及びその周辺】

・マドリード：首都であり、スペイン最大の街。

・スペイン広場

マドリードの主要広場のひとつで、中央にはスペインの大作家セルバンテスならびにその代表作の主人公「ドン・キホーテ」と従者サンチョ・パンサの像がある。

◇ 美術館

・プラド美術館

およそ8,000点のコレクションの中で、とりわけエル・グレコ、ベラスケス、ゴヤ（スペインの三大画家といわれる。諸説あります。）、ムリーリョなどによるスペイン絵画の宝庫として知られている。

＜主な収蔵品：作者＞

ラス・メニーナス（女官たち）〈ベラスケス〉、裸のマハ〈ゴヤ〉など

・ソフィア王妃芸術センター

国王の妃の名称を冠した美術館。スペインを代表する画家であるピカソのゲルニカを収蔵することで知られる。

・トレド

マドリードの南南西約70kmほどにあり、イベリア半島最長のタホ川に三方を囲まれた丘の上にある古都で、旧市街が世界遺産に登録されている。キリスト教、イスラム教、ユダヤ教の3つの文化が共存している。

・セゴビア

マドリードの北西、標高約1000メートルの高地にある都市で、町全体が城壁で囲まれたスペインを代表する観光地のひとつ。

・アルカサル

古代ケルト人の城の跡を利用しイスラム教徒が基礎を築き、その後キリスト教徒が完成させた城。ディズニー映画の「白雪姫」の城のモデルになった。

・水道橋

古代ローマ時代の遺産で、地上約 30 m の巨大な水道橋。保存状態がよく、現存するローマ水道橋の中でも最も見事なものの一つとされている。夜にはライトアップされる。

【キリスト教の巡礼地】

・サンティアゴ デ コンポステーラ

フランスからピレネー山脈を越え、スペイン北部を西端に向かって進む巡礼路の目的地であるキリスト教の聖地で、十二使徒のひとり聖ヤコブの遺骨が納められている大聖堂は、巡礼路とともに世界遺産に登録されている

[スペイン南部（アンダルシア地方）]

・アンダルシア州

スペイン最南部にある地域。レコンキスタ（国土回復運動）による全土の再統一の際に、最後までイスラム勢力が残った地域。今でも建造物をはじめ影響が残る観光地が多い。代表都市はグラナダ、セビリア、コルドバなど。

・グラナダ

1492年に陥落するまで、最後のイスラム王朝があった街。

・アルハンブラ宮殿

グラナダの丘の上に建ち、アラビア語で“赤い城”を意味し、イスラム文化の栄華を今に残すイスラム宮殿の最高傑作と評される。

・セビリア（セビーリャ）

スペイン南西部にあるスペイン第4の都市で、アンダルシア州の州都。「春まつり」や、ビゼーのオペラ「カルメン」の舞台として知られる街。セビリアの春祭りはスペイン三大祭りの一つです。

・アルカサル

14世紀にイスラム時代の宮殿の跡地に、スペイン王の命により、イスラム教とキリスト教の建築が融合したムデハル様式の宮殿。

・ヒラルダの塔

スペイン最大の規模を誇る大聖堂に付属する高さ94mの鐘楼。当初はイスラム教のモスクのミナレット（塔）として建設されたが、キリスト教時代になって鐘楼部分が付け加えられた。

・コルドバ

アンダルシアを代表する都市のひとつ。グラナダ、セビリアと同様に主要な観光スポットが世界遺産に登録されている。

・メスキータ

世界遺産「コルドバの歴史地区」にある聖マリア大聖堂。イスラム教の大モスクとして建てられたがレコンキスタ後、キリスト教の大聖堂に改築された。通称メスキータ（スペイン語でモスクの意）と呼ばれる。

・特有の文化・風習

古くからアンダルシア地方に伝わる文化・風習として、歌・ギター・踊りで構成される情熱的な民俗舞踊であるフラメンコ、また、全土で行われる牛との戦いである、闘牛の興行もアンダルシアでの見どころの一つです。

[スペイン東部（地中海沿岸）]

・バルセロナ：北西部にあるスペイン第2の都市で、カタルーニャ州の州都。

・サグラダファミリア

建築家アントニオ・ガウディの遺作となった教会で「聖家族教会」と訳される。140年以上建築が続いていて、ガウディ没後100年の2026年にメインタワー「イエスの塔」が完成した。

◇ ガウディの他の主な作品

グエル公園（グエル伯爵の依頼により計画された住宅地）、カサ・ミラ（直線部分のない独特な景観の住宅）

・バレンシア：南西部にあるスペイン第3の都市で、バレンシア州の州都。米料理「パエリア」の発祥の地。

・サン ホセの火祭り

毎年3月中旬に行われ、最終日の3月19日（サン ホセの日）の夜中に数百体の巨大な張子人形を焼き払う壮大な祭り。

[スペイン北部（バスク地方）]

・サンセバスチャン

ビスケー湾に面した海辺の町で、半円形の美しいコンチャ海岸が有名で、美食の街としても知られている。旧市街には多くのバルが立ち並び、ミシュランの3つ星レストランもいくつかある。

・パンプローナの牛追い祭り（サン・フェルミン祭）

スペイン北部の古都パンプローナで開催される牛追い祭り。ヘミングウェイの小説「日はまた昇る」に描かれたことでも知られる。

[その他の項目]

■ 首都：マドリード ■ 通貨：ユーロ（€） ■ EU：加盟 ■ シェンゲン協定：加盟

未出題の定番観光地

* 王宮（マドリード）

焼失したハプスブルク王家の宮殿跡に 1764 年に完成した壮大な宮殿。総部屋数は 3000 近くもあるとされる。豪華絢爛な王座の間や庭園などが見どころ。

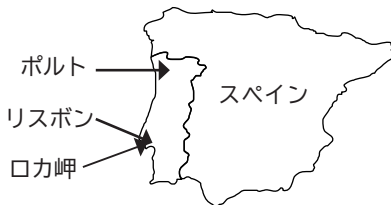
* カタルーニャ音楽堂（バルセロナ）

1908 年に完成した、世界で唯一世界遺産に登録されたコンサートホール。設計は、ガウディと並ぶ建築の巨匠であるムンタネー。

* コスタ・デル・ソル

スペイン南部のアンダルシア地方の地中海沿岸地域で最大のリゾート地域。地名は太陽海岸という意味。主な町はピカソの生まれたマラガ、白い壁が建ち並び「白い村」といわれるミハスなど。

No.6：ポルトガルの観光地



【概要】

イベリア半島の先端にある国。かつて一時代を築いた海洋大国で世界史に与えた影響は大きく、また日本との関係も深い。出題は少ない。ヨーロッパの西端ということから、観光地理の分野より、航空運賃の経由地や、時差の問題の題材としての出題がみられる。

[首都リスボン及びその近郊]

* ジェロニモス修道院

大航海時代の幕開けを主導したエンリケ航海王子と、ポルトガルの海外進出に大きな貢献を果たしたバスコ・ダ・ガマの遺業をたたえて建設された、ポルトガル独特の建築様式であるマヌエル様式の傑作とされる修道院。

* ロカ岬

ユーラシア（ヨーロッパ+アジア）大陸の最西端の岬。リスボンから日帰り圏にある。国民的詩人であるルイス・デ・カモンイスの「ここに地果て海はじまる」の詩が刻まれた石碑が建っている。

* ファド

ポルトガルの民族歌謡で、哀愁を帯びた歌声とギターの伴奏で大衆の感情を歌い上げる。フランスのシャンソン、イタリアのカンツォーネ、アルプス地方のヨーデルなどと並ぶ民族歌謡。

[その他の項目]

■ 首都：リスボン ■ 通貨：ユーロ（€） ■ EU：加盟 ■ シェンゲン協定：加盟

未出題の定番観光地

* 発見のモニュメント（リスボン）

ベレン地区のテージョ川の川岸にある、大航海時代に活躍したカラベラ船を模した記念塔。エンリケ航海王子を先頭に、天文学者・地理学者・航海士などの像が並んでいる。

* ベレンの塔（リスボン）

16 世紀に、港で船の出入りを監視するために作られた塔。ジェロニモス修道院とともに世界遺産に登録されている。

* ポルト

北部にある、ポルトガル発祥の地で同国第2の都市。アーチ形の美しいドン・ルイス1世橋や大聖堂が見どころ。また、ポートワインも世界的に知られている。